

## (4) 噴霧する場合 (写真3)

(1枚の巣枠について、2～3度の軽い噴霧で十分です)

本製品30gを2Lの水（カルキを抜いたほうが生菌の活性が高くなります）に混合します（水温は45℃以下）。希釈液を巣脾に噴霧してください。ノズルを使用して巣枠間に噴霧することも可能です。なお、多量の散布の必要はありません。本菌は蜂にかかっても問題はなく、また蜂蜜中では増えません。



写真3

## 3. 注意 (I)

- (1) 粉末製品の（推奨）有効期間は6か月です（データ試験では、冷蔵下1年の保存が可能です）。
- (2) 粉末中で生菌は徐々に小塊をつくりますが、希釈した液に懸濁物があっても問題はありません。生菌が高濃度で生存しています。2～3回振ってから使用してください。
- (3) 粉末製品を開封した後の保存は、密封して室温下または冷蔵庫に置いてください。
- (4) 希釈した菌液の残部は、冷蔵庫に保管してください。保存期間は5日ですが、濁りがでた場合には使用をお控えください。
- (5) 製品中の生菌は、活性の高い状態にあります。これを不適切に再培養した場合には、本菌の活力が低減し雑菌の増殖することがあります。